

# あらゆる災害に対応できる 組織

東京消防庁 消防総監 吉田 義実



東日本大震災発生時に「想定外」という言葉が頻繁に使われたことを記憶している方も多くいらっしゃると思いますが、当時の土木学会の会長の阪田氏が、「安全に対して想定外はない」と記者会見で発言されており、その言葉が強く印象に残っています。

あらゆる災害に対して、消防の使命を果たしていくためには、災害対応における「想定外」を無くしておく必要があります。常日頃から、どのようなことが起こり得るのか「想像力」を働かせておかなければなりません。

今年一年を振り返ると、国外ではトルコ・シリアでの地震やリビアでの大洪水、北朝鮮による度重なるミサイルの発射、国内では台風13号による大雨や早い時期から連日続いた猛暑、この夏は新型コロナウイルスだけではなく、例年、冬に流行していたインフルエンザも同時流行しました。また、令和2年4月に内閣府より、富士山が大規模噴火し、大量の火山灰が首都圏に降った場合には、都市機能に深刻な影響を及ぼすことが報告されたことを受け、東京都では、東京都地域防災計画・火山編の修正に向け、令和5年5月に「富士山噴火降灰対策検討会」を設置し検討を進めています。消防機関においても業務継続に必要な庁舎や車両等への火山灰による大きな影響が想定され、まさに、これまで「想定外」としてきたことを「想定内」としていかなければならない状況となっています。

こういった状況を踏まえると、テロ災害を含めたあらゆる災害に対して、迅速かつ的確に対応することができる組織の確立が急務であります。

消防の仕事は一人で完結できるものはほとんどなく、組織力で各種業務を推進しています。その組織力をより高めていくためにも、職員一人一人が能力の伸長を図るとともに、その能力を有機的に結び付け、組織力へと昇華させる必要があります。そのためには、階級に関係なく活発に意見交換ができるような職場環境の構築が求められます。このことから、東京消防庁では、階級社会の弊害である行き過ぎた権威勾配を排し、上下の隔たりなく建設的な意見が出し合え、心理的にも安心して表現のできる職場環境の整備を進めており、着実にその成果が表れています。今後も、職員の積極性や主体性を引き出す、心理的安全性の高い職場環境の整備を進めることで、組織力を更に強化し、あらゆる災害に対応可能な組織を目指します。

東京消防庁では、災害対応における「想定外」を無くすため、あらゆる災害を想像、想定し、その対応策を構築していくとともに、総務省消防庁をはじめ、全国消防長会、近隣消防本部及び関係機関との連携を密にし、安全・安心な「セーフ シティ」の実現に向けて、職員一丸となって消防行政を推進してまいります。